

愚公山を移す 努力すること・継続することの大切さ（平成28年度第3学期始業式より）

みなさん、おはようございます

年も改まり、今日が12日目となりました。今年、年の初めに立てたであろうみなさんの決意や志のすすみ具合はいかがでしょうか。

今日は始業式、年頭でもあります。今日この場で新たなる決意をすること、あるいは確認することはとても意義のあること。なぜならば、始業式は儀式であり、儀式とは心を新たにし、厳然と現在と過去を切断し、未来に決意する時間であり、空間だからです。今こそ決意を新たにしたり、強く確認したりして、意味のある始業式としてください。

私からは一つの説話を紹介して、話しを終えます。志を強くするものとなってくれればとてもうれしく思います。

昔、「北山の愚公」という90才になる老人がいました。自分の家のそばに太形山、王屋山という二つの険しい山があり、人々は大変不便を感じていました。そこで愚公は人々のため、往来がスムーズに行くようにと、この二つの大山を取り除いて平らにしようと考え、山を削って、土を運びはじめました。これを見た河曲の智叟(知恵のある人)はじめ、多くの人々は、「90にもなる老いぼれのわずかな力で山をどうしようというのだ。そんなことができるものか。」と、その愚かさを嘲笑しました。すると、愚公は嘆息してこう言ったのです。「たとえ私が死んでも子供が残り、山を削る。子供は孫を生み、その孫がまた子を生む。次々と子ができ、どこまでも山を削り続けることができる。ところが山の方は絶対大きくはならない。どうして平らにできないことがあるものか。」と、作業をやめなかった。これを聞いた智叟は返す言葉もなかった。

この顛末を見ていた天帝は愚公の志に大いに感じ入り、力持ちの神の二人の息子に命じて山を背負わせ、他に移してしまいました。こうして、愚公の住んでいる所から、交通を妨げる山はなくなってしまったという話です。

今から2000年以上も前、春秋戦国時代の『列子』湯門篇にある説話です。この本には、他に杞憂や朝三暮四についての故事も載っているのだそうです。

さて、ここに出てくる愚公とは、愚直一徹な人物として扱われています。「愚公山を移す」というのは、どんなに困難なことでも辛抱強く努力を続けられれば、いつか必ず成し遂げることができるというたとえであり、上の故事に基づいています。

努力やその継続を礼賛する言葉は実にたくさんあります。雨垂れ石を穿つローマは一日にして成らず 石の上にも3年などなど。それは、その大切さを、誰もが分かっている、理解しているけれど、それができないから、容易なことではないから、多くの言葉が生まれているのではないかと、そんな気がします。

これは結局、わかっていることとそれを実行するということは全くの別次元のことだということです。いずれにしてもこの説話は、努力することの大切さ、継続することの大切さを訴えています。

皆さんには是非、努力すること、そしてそれを継続することを実践し、見事に夢を叶えてほしいと願っています。

さて、3年生はいよいよ勝負の年ですね。

そしてまた、高校生活締めくくりの3か月であり、4月からの新生活に対する準備の時期でもあります。悔いの無いよう有意義で充実した日々を過ごしていただきたい。とにかく、1日1日を大切にしていきたい。

逆境があれば工夫し考える力が付きます。厳しく寒い中での勉強、つらい通学時間、そんな時間が諸君を成長させるということを忘れないでほしい。

まずは勉強以外の生活習慣で負けないことです。マナーやモラルを重んじた規律の中で学ぶ姿勢が後でものを言います。入試では学力だけが問われるのではない。総合的な人間力が問われているのです。その事を決して忘れないことです。

2年生は今年3年生、4月からは最上級生としてどんどん仕切っていかなければなりません。本荘高校の活躍ぶりは君たちにかかっています。できれば早めに今を、3年ゼロ学期と捉え直して充実の日々を過ごしていただきたい。

1年生は、いよいよ中堅、君達一人一人のがんばりが、学校に活気を与えてくれることとなります。この3か月は、1年の総まとめであると同時に2年への準備期間でもあります。助走をきちんと取らないと遠くまで飛べません。充実の助走期間とすべく、日々頑張ってください。

いずれにしても、本荘高校、全ての生徒に努力し続けることを願って止みません。「愚公山を移す」という例もあります。どんなことでも不可能だと決めつけることなく、また、諦めることなく、夢の実現に向けて、努力を継続してください。

皆さんにとって、今年が飛躍の年となって、充実のいい一年となることを願って3学期始業式の式辞といたします。

(完)